

1. 件名：福島第一原子力発電所2号機の使用済燃料プール内調査の作業内容に係る面談
2. 日時：令和2年6月3日（水）16時10分～16時50分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
知見主任安全審査官、松井安全審査官、伊藤係長
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所 担当3名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、本年5月22日の面談における原子力規制庁からのコメントを受け、2号機使用済燃料プール（SFP）内調査の作業内容について、資料に基づき説明があった。
- 2号機SFP内調査の概要及び調査方法
 - 調査機材の設置のイメージ
 - 水中照明について
 - ✓ 遠隔無人重機によりSFP脇（北東側、南西側）に1台ずつ運搬・設置する。
 - ✓ SFP内を照らすとともに、アーム途中に設置したカメラにより作業全体を俯瞰するために用いる。
 - 水中ドローン（ROV）運搬装置について
 - ✓ 遠隔無人重機によりSFP周り（西側）まで運搬・設置する。
 - ✓ 水中ROVをSFP内へリリース及びSFP内から回収する作業に用いる。また、回収時に水中ROVやケーブルを除染するための散水機能を有する。
 - 機材（水中照明及び水中ROV）の設置作業
 - ✓ 西側構台の前室までクレーン等で機材を運搬後、遠隔無人重機を用いて機材を把持し設置箇所まで運搬・設置する。
 - ✓ 小型ロボットにより、運搬中のケーブルの状態確認及び整線作業を行うとともに、設置後の機材の水平調整等を行う。
 - ✓ 水中照明の北東側への設置では、遠隔無人重機が原子炉ウェル周囲の段差に設置したスロープを乗り越える際に、振動で水中照明を落とす可能性がある。このため、ウェル上に運搬した仮受架台に一度水中照明を仮置きし、遠隔無人重機のみがスロープを乗り越えてから、仮置きした水中照明を運搬・設置する手順とする。
 - ✓ なお、モックアップ訓練で得られた知見も踏まえ、機材がSFP内に落下して燃料に衝突することを防止する対策等、想定されるトラブルへの対策を講じている。
 - 今後のスケジュール
 - ✓ 6月4日から機材の設置作業を開始し、準備完了後、6月16日からSFP内調査（3日間）を開始予定。
 - ✓ 調査で撮影した映像は速報として公表し、調査結果は7月中に報告予定。

○原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、作業の進捗状況を適宜報告することを求めた。

6. その他

資料：

- 2号機使用済燃料プール内調査の作業内容について